PRESS RELEASE

〈報道関係各位〉

YURINDO

2026年11月18日

株式会社有隣堂

浮世絵や旅日記からよみがえる、江戸の旅

1月13日発売 『神奈川の街道と脇往還――江戸時代の旅人が歩いた道』

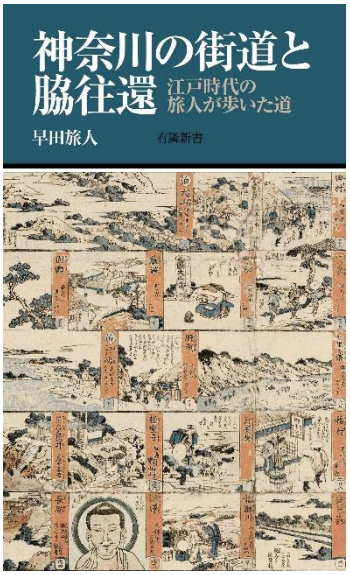
～旅人の目線から、街道が育んだ歴史と文化をたどる～

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役 社長執行役員：松信 健太郎）は、2027年1月13日（水）に新刊『神奈川の街道と脇往還――江戸時代の旅人が歩いた道』を刊行いたします。
著者は、平塚市博物館学芸員の早田旅人氏。本書は、東海道や甲州道中といった五街道のほか、大山街道として知られる矢倉沢往還や中原往還などの「脇往還」を取り上げ、江戸時代の神奈川の道と当時の旅人の目線からその道のりを生き生きと追体験する一冊です。浮世絵や旅日記を手がかりに、街道沿いの絶景や宿場町の賑わい、旅人が見聞きした出来事をたどりながら、現代の街並みにつながる神奈川の歴史と文化を解き明かします。

■本書の背景

「道」は単なる移動の手段ではなく、人や物、情報を運び、地域の暮らしや文化を形づくってきました。道の歴史をたどることは、その土地の成り立ちや人々の営みを知ることにつながります。
江戸時代、幕府のお膝元であった神奈川には、「東海道」や「甲州道中」といった主要な街道が通り、江戸と各地を結ぶ交通の要衝として発展しました。それらの街道とともに地域の交通を支えていたのが、街道を補うように張り巡らされた「脇往還（わきおうかん）」です。
大動脈である街道と、地域を結ぶ脇往還は、人々の往来や信仰、物資の流通を担い、社会を動かす重要な基盤となっていました。また、その繁栄の裏には、宿場町を維持するために、周辺の農村には人馬の提供などの負担が課され、宿場町との間で争いが生じることもありました。
本書は、浮世絵などの絵画をはじめ、江戸の画家・渡辺崋山が遺した旅日記や外国人医師シーボルトの滞在記録、各地に残る道中記を手がかりに、「当時の旅人の目線」から神奈川の道をたどります。往時の情景と人々の営みを通じて、神奈川という地域の豊かな歴史と魅力を解き明かす一冊です。

●書名：『神奈川の街道と脇往還――江戸時代の旅人が歩いた道』
●著者：早田旅人
●出版社：有隣堂
●定価：1,430円（税込）
●体裁：新書判・本文256ページ
●ISBN：978-4-89660-269-2
●発売日：2027年1月13日（水）
●取り扱い：有隣堂各店（一部店舗除く）、全国の書店



【目次】

序章 神奈川の道と歴史
第一章 街道世界への招待
第二章 東海道
第三章 甲州道中

第四章 矢倉沢往還
第五章 中原往還
第六章 その他の街道
終章 道と近代化

■本書の特徴

1. **現代の道や地名に重なる「街道と脇往還」を幅広く紹介**
   東海道や甲州道中といった五街道だけでなく、現在の大山街道の原型となった矢倉沢往還などの脇往還、さらには江の島道や鎌倉道、箱根の温泉道まで、神奈川エリアを行き交う多彩な道を体系的に解説しています。
   現代の幹線道路や今に残る地名と対比しながら、観光地や街並みの原風景、その成り立ちを立体的にたどることができます。
2. **浮世絵や旅日記から「当時の旅人の目線」を追体験**
   浮世絵などの絵画をはじめ、画家・渡辺崋山の旅日記『游相日記』や外国人医師シーボルトの記録、各地に残る道中記を手がかりに、往時の情景を生き生きと描き出しています。
   街道沿いの絶景や宿場町の名物グルメ、旅人が書き残した率直な感想や本音を通して、当時の旅の空気感を鮮やかに感じ取ることができます。
3. **華やかな街道文化の裏にあった、交通網を支えた人々のリアルな姿**
   江戸時代の街道は、宿場ごとに人や馬をリレーして公用の荷物や人を運ぶ「宿駅伝馬制度（しゅくえきてんませいど）」によって成り立っていました。
   本書では、社寺参詣や行楽の華やかな賑わいだけでなく、その制度を維持するために人や馬の供出を強いられた周辺農村（助郷）の苦悩や宿場町との争論、過酷な現場で働いた人々の境遇など、交通網を陰で支えた民衆のリアルな姿にも光を当てています。

■著者紹介

早田旅人（はやた・たびと）

1974年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得。博士（文学）。現在、平塚市博物館学芸員、國學院大學文学部兼任講師、（続）藤沢市史編さん委員会委員、三島市文化財保護審議委員会委員。著書に『近代西相模の報徳運動』（夢工房）、『報徳仕法と近世社会』（東京堂出版）など。

■有隣堂の出版物

https://www.yurindo.co.jp/publication/book/